

- 目的: 複雑化するクルマの操作系 (NAVI, AUDIO, 空調) をユーザ視点から見直し、誰もが安心して使いこなせる基本形を提案する
- これまでの活動経緯: しみじみマップの作成、実車の評価、ユーザアンケートによって使用実態を把握。複数の案出しを行いユーザインタビューを行った

① 見た目が複雑

- ・ボタンの数が多い
- ・とても使いこなせそうに見えない
- ・複雑で使い方がわからない



② 使わないボタンがある

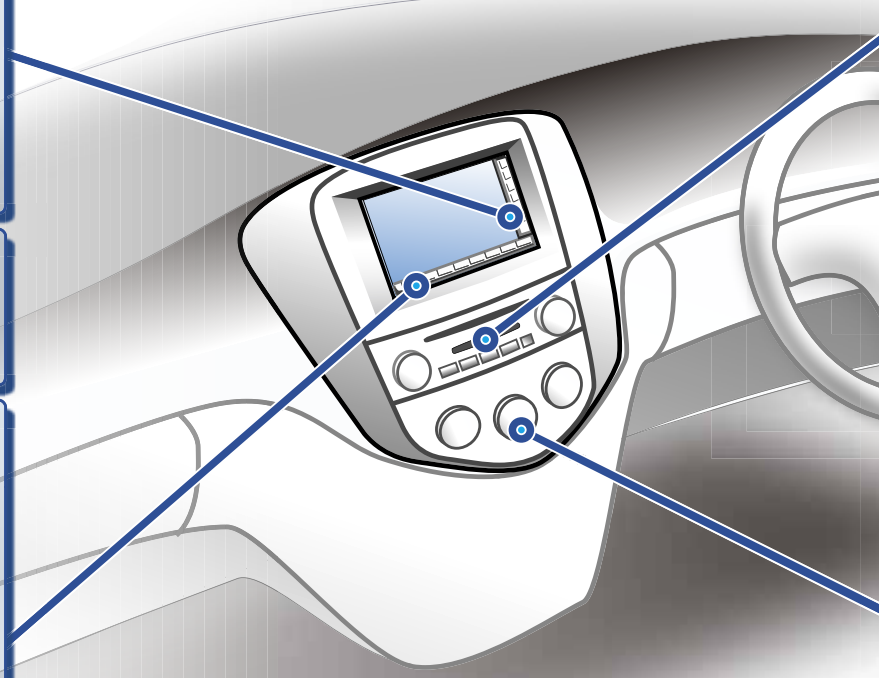
- ・よく使う機能は限られる
- ・自分の使い方とあわない
- ・触ったことのないボタンがある

③ ボタンが使いにくい

- ・文字が読めない (ハード/ソフトボタン)
- ・ボタンが小さくて触れない (ハード/ソフト共に)
- ・運転席から届かない



ユーザ視点からみえる 操作系に対する課題



④ ボタンの表記がわからない

- ・ボタンの意味がわからない
- ・AUTOって何のオート機能?
- ・SOURCEって?
- ・MENUはナビのメニューと何が違うの?



- ・MODEってなに?
- ・☎ と ☎ の違いがわからない
- ・使い方がわからない
- ・アイコン (図記号) の意味がわからない



今後の取り組み

1. これまでの調査結果に加え、標準化WGからの情報提供を受け、モックアップを製作
2. モックアップによる検証を通して、使用実態に即した使いやすい操作系の案をまとめる
3. この結果を標準化WGへ渡し、ガイドライン化の検討を進める

- 目的: 公共交通機関のターミナルにおける、移動情報 (サイン計画等) の課題をまとめ、シームレスな移動のためのありべき姿を提言する
- これまでの活動経緯: しみじみマップの作成、駅/空港などの実態調査から課題を抽出。乗り換え時における分かりにくさ、迷いを解消するための方策を検討

シーン: 電車内

- ・路線図情報より広告のほうが目立つ
- ・アナウンスが聞き取りにくい
- ・ベビーカーの置き場がない



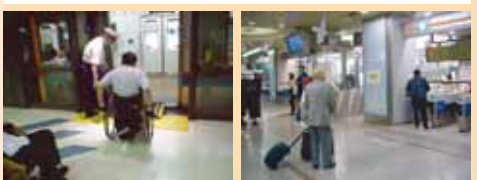
シーン: 地下鉄への乗り換え

- ・違う事業者間ではサインが統一されていない
- ・後付けエレベータはホームから遠い
- ・地下鉄の場合、地上との地理感覚がつかみにくい



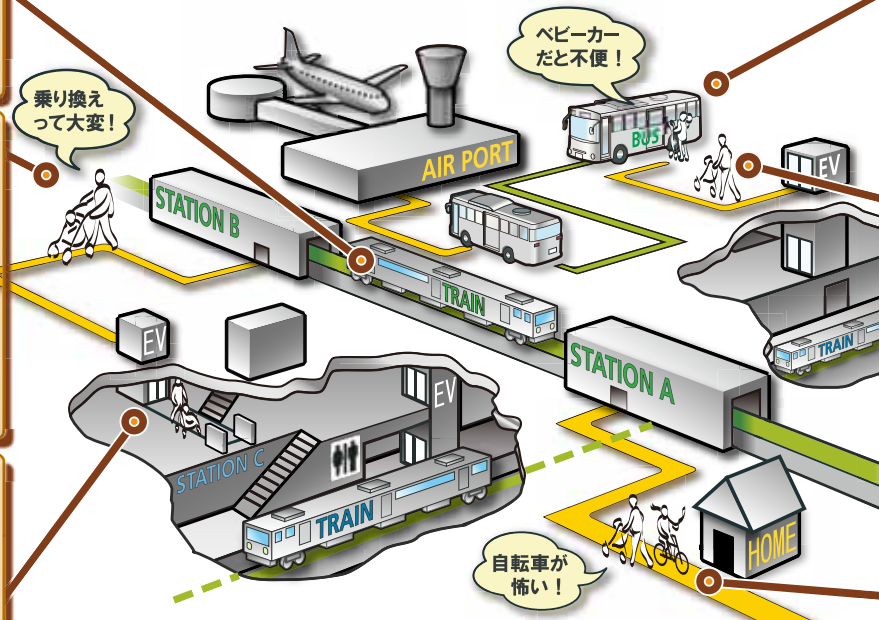
シーン: 駅

- ・駅名で切符が買えない
- ・人手を借りずに車いすで利用できない
- ・どの列車に乗ればいいのかサインがわかりづらい



実態調査からみえてきた 移動情報に対する課題

自宅から電車、バスを使い空港までのルート例でみましょう



シーン: バス

- ・時刻表がわかりづらい
- ・バス内での料金支払いにストレスを感じる
- ・どこに止まるのかの情報が車内では得にくい



シーン: バスに乗り換え

- ・バス会社の違いで料金支払いルールが違う
- ・目的地までの最適な乗り換え方法がわからない
- ・バス路線図がどこにあるのかわからない



シーン: 自宅から駅

- ・歩行者と自転車が混在する道
- ・セダンタイプのタクシーは乗り降りしにくい
- ・電柱が邪魔



今後の取り組み

1. シームレスモビリティを実現するための重要ポイントをまとめ、具体的な対策案を出す
2. シミュレーションなど案の検討を行い、有効なものはユーザへのインタビュー/検証を行う
3. 結果を、移動情報のあるべき姿としてまとめ、関係機関に対しての提言を行う